モユク☆カムイ NO.128

●モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。

April 2026

ASAHIYAMAZOONEWS
あさひやまどうぶつえんニュース

ボルネオオランウータン
Pongo pygmaeus

もくじ

ぼくは動物大使　その89
森の住人　ボルネオオランウータン ……1.2

新旧旭山動物園長あいさつ ……3.4

飼育研究レポート ……5
～自然観察会2025～『園内で野鳥観察!』を振り返って

2025年度 冬の企画展 開催レポート ……6

主なできごと・編集後記・飼育動物数 ……7

ASAHIKAWA CITY

ぼくは動物大使 その89 森の住人 ボルネオオランウータン

ボルネオオランウータン

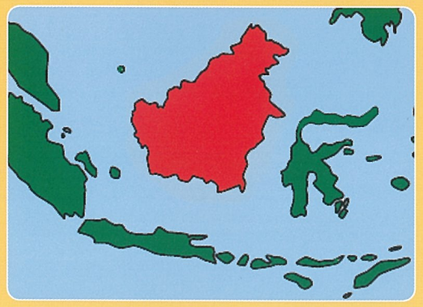
学名　*Pongo pygmaeus*
分類　霊長目　ヒト科
　　オランウータン属

絶滅の危険性が極めて高い「近絶滅種」であり、現在は絶滅危惧（IA）類に分類されている。野生下での棲息数は約5万～6万頭で、過去100年間で個体数が80%減少している。

樹上性であり、一生のほとんどを樹の上で過ごす。群れを作らず、単独生活をする。母親とこどものみ一緒に生活をする。

体重はオスで80kg前後、メスで40kg前後。

ボルネオオランウータンの分布



東南アジアのボルネオ島（インドネシアとマレーシア）の熱帯雨林

知能

非常に知能が高く、道具を使用したり、飼育係とコミュニケーションをとることができる。

食べ物

樹上の果実や種子、葉などを食べている。動物園では果物や野菜を中心に毎日15種類程度のエサを与えている。

オスの特徴

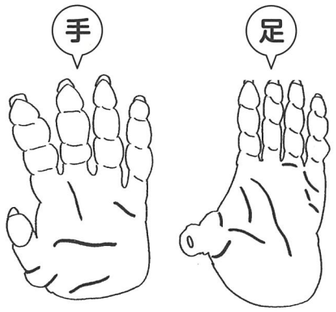
オスはメスに比べて体が大きく、顔の頬の部分が大きく張り出す。これをフランジと呼ぶ。旭山のモリトも15歳くらいからフランジが伸び始め、現在は15cm程度に成長している。

2024年4月

2026年3月

手と足

樹上生活に適応したため、腕が長く足が短い。移動には主に腕を使い、ブラキエーション（うんていの動き）で木から木へ移動する。足は手と同じ親指が独立した形をしており、足でも物をつかむことができる。



省エネ型のくらし

オランウータンはほとんど動きません。これはエネルギーの無駄を防ぐためと考えられています。このため、甘い果物ばかり与えているとすぐに肥満になってしまいます。

オランウータンとチンパンジー

飼育係をしているとオランウータンとチンパンジーの違いを感じます。オランウータンは無口で無表情、対してチンパンジーはにぎやかで表情豊かです。単独で暮らすオランウータンはコミュニケーションをとることがほとんどないのですが、チンパンジーは群れの仲間と複雑なコミュニケーションをとるためだと考えられています。

単独生活

大型類人猿（ゴリラ、チンパンジー、ボノボ、オランウータン）の中で唯一、群れを作らず単独生活をします。この理由として、東南アジアの森林の餌資源が少ないため、群れを維持できなかったためと考えられています。

動物園でも成獣は単独で飼育をしますが、来園者には「かわいそう」と言われることもあります。ヒトの価値観で判断するのではなく、その種特有の暮らし方についても知ってもらいたいと考えています。

絶滅の危機

野生のオランウータンが絶滅の危機に瀕している原因の一つに森林の減少があります。ボルネオ島ではアブラヤシの大規模な畑（プランテーション）を作るために森林を伐採しています。アブラヤシは様々な形で私たちの暮らしを豊かにしてくれますが、どこでどのように作られているかを知ることがとても大事だと思います。

新旧旭山動物園長あいさつ

２０２６年４月１日付旭川市人事異動で、田村園長が退任し、中田新園長が就任いたしました。田村園長に２年間の園長期間（７年間の動物園勤務期間）を振り返ってもらい、中田新園長に就任のあいさつを読者のみなさんにしてもらいました。

園長退任のご挨拶

田村　哲也

この度、旭川市の人事異動に伴い、２０２６年３月末をもって園長を退任しました。動物園には７年ほど籍を置かせてもらい、園長になってからは２年と短い期間でしたが、多くの方々から温かいご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

私自身、４３年ぶりの事務方の園長であり、動物の専門家ではない自分がどのように旭山動物園を牽引していけるのか、戸惑いや不安を覚えながらのスタートでした。動物飼育の領域は、高い意識と専門的知識・技術を持つ職員に任せることで、私は運営面での舵取りやゼロカーボンの取組、来園者の視点に立った環境整備などに注力してきました。人前に立つことは最後まで慣れませんでしたが、型どおりに上手に話すだけでは何も印象には残らず、伝えたいことに焦点を当て、不器用ながらも自分の言葉を持つことの大切さに気づいたのは晩年になってからでした。

この「不器用さ」は、旭山動物園そのものだと思っています。自由でフラットな職場の雰囲気や決してスマートとは言えない仕事のスタイル、泥臭さや愚直さなどは、当時から残っている旭山の組織文化です。表面的な取り繕いではなく、物事の本質に向き合おうとする姿勢は、このような職場から生まれるのではないかと、この感覚は大切にしていました。

７年を振り返ると、その多くがコロナ禍での運営を余儀なくされた年月でした。動物を飼育しているだけでなく来園者に観てもらってこそ動物園です。どうぞ来てくださいと言えないもどかしさを抱え、憩いや学びの場を提供できない試練が続きましたが、動物園の存在意義を再認識してもらえる良い機会であったとも思っています。

旭山動物園は、先輩職員による数々のチャレンジや失敗が積み重なって現在があります。また、その精神は代々引き継がれてきた良き伝統です。中田新園長にバトンを託すことになりますが、職員の情熱や皆様のご支援によって、理想の動物園に近づいていくことを期待しています。市役所の一職員として、これからも動物園をしっかりと見守り、応援していきます。

皆様大変お世話になりました。ありがとうございました。

園長になりました

中田　真一

この度、４ 月 １ 日付で旭山動物園の園長となりました中田です。よろしくお願いします。

飼育という現場業務しかやったことがない私にこんな大役が務まるのか？今はそんな思いでいっぱいです。

思い返せば１９９３年､動物に何の興味もなく「いつ辞めようか？」と渋々始まった動物園勤務でした。初担当動物はダチョウ、キジ・クジャク、カピバラ。「ダチョウは大きくて足が速い飛べない鳥」「クジャクはキレイな羽を広げる鳥」「カピバラってなに？」そんなレベルから始まった飼育人生（今もそんなに変わってない？）気付けば３２年が経ちました。この間、ゾウに動物との距離感の大切さを学び、アザラシから泳ぎを教わり、ライオンには家族の絆を見せつけられ、チンパンジーから群れの掟を学び、アムールトラから命の強さを刻み込まれました。また、この「モユク・カムイ」も先人たちが紙を買う予算がない中、手作りで発行しつづけてきた伝統の一品｡ＮＯ４１号から編集に携わり、冊子作りの中心人物であった元旭山の飼育係で、現絵本作家のあべひろしさんが「俺、絵本作家に専念するわ」と退職され「表紙絵、誰が描く？」となり飼育員数名でオーディションの末、それまで絵など描いたことがない私が選ばれ､ＮＯ４８号から表紙絵を任されＮＯ１１３号まで描き続けて今は後任に託しました。

動物と向き合っていなかったら気付けなかったであろう感性。生と死の繰り返しの中で植え付けられた命の重さと尊さ。動物園に入っていなかったらやってなかった様々な経験。いろいろなことを教えてくれた動物たちと動物園に感謝を込めて、この旭山動物園に恩返しをする想いで、重責ではありますが園長として頑張っていこうと思っています。

今後は先輩たちから引き継いだ旭山イムズをしっかりと継承し「とりあえずやってみるべ」の精神で失敗を恐れず挑戦し続け､でもあまり背伸びはせず「ありのまま」で歩んでいきたいと思います。今後とも旭山動物園をよろしくお願いいたします。

飼育研究レポート
～自然観察会2025～『園内で野鳥観察!』を振り返って

旭山動物園では定期的に自然観察会を行っています。

自然観察会とは、様々な実体験を通して、自然への興味や関心、自然を大切にする心などを育むことを目的としたイベントです。過去には、カエルのビオトープを作る回や、川で水生生物を捕獲する回もありました。

今回のタイトルである野鳥観察会は、双眼鏡を配布し園内を訪れる野鳥を観察するイベントで、2025年1月から2026年3月末まで11回行いました。観察できた鳥は次の26種です。

マガモ、アカゲラ、オオアカゲラ、コゲラ、キバシリ、ヤマゲラ、マヒワ、カワラヒワ、エナガ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、キクイタダキ、ゴジュウカラ、シジュウカラ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、スズメ、ツグミ、キビタキ、ヒヨドリ、アオジ、クロジ、トビ、キジバト

カケス

1年以上開催していると、季節や年によって飛来する鳥に変動があることに気が付きます。夏鳥であるキビタキは5月・6月開催のみ観察され、留鳥でも体が小さくて発見が難しいキバシリやキクイタダキは葉が落ちて観察しやすい冬の開催回での記録が多くなっています。

2025年3月開催回ではたくさんのツグミ、カワラヒワを観察することができましたが、2026年はツグミ、カワラヒワともに記録が0となっています。

一方2025年冬はカケスの飛来がほぼ0でしたが、2026年冬は開催日に4回連続で観察することができています。

キビタキ

ツグミ

5年に1度更新される環境省レッドリストのうち鳥類のものが2026年3月に更新されました。保護活動により個体数が回復してきたトキやタンチョウがランク引き下げになった一方で、前回までは記載されていなかったキンクロハジロやゴイサギなど普通種だった種のリストインが見られました。自然観察会で記録のある26種すべてが現在は普通種の鳥たちです。しかし、普通種の鳥がずっと普通に、見飽きるほど当たり前に、我々の隣でともにこの先も安全に生息していくためには人間側が努力をしていかなければなりません。

「守るため」に最初に必要になることは「知ること」です。どんな鳥が、どんな時期に、何を求めて、どんな場所にくるのか。身近な鳥を知ることは「自分がどんな生き物と隣り合って生きているか」を知ることでもあります。自然観察会をきっかけに「知る」機会が増えたら嬉しいです。

（くもざる・かぴばら館、ワシ・タカ担当　高橋ひな）

2025年度 冬の企画展 開催レポート

企画展1 雪の上の足跡展@いこいの広場

日常生活の中、わたしたちの身の回りで野生動物を見たことがある人はどれくらいいるでしょうか？おそらく、多くはないでしょう。なぜなら、野生動物は普段は隠れていてめったに姿を現さないからです。しかし、いのちは確かに近くにいます。北海道の冬は、「雪」という真っ白なキャンバスに「足跡」という「いのちのサイン」が描かれる、そんな素晴らしい場所と季節です。そこで「雪の上の足跡」に注目し、誰の足跡か判別する方法や足跡の分析方法、クイズなどを織り交ぜた写真パネル展を開催しました。

足跡は本当に奥が深く、その魅力をまだまだ紹介しきれなかったのですが、企画展を訪れた方が、日常でも足跡を見つけて、身近ないのちを感じていただけることを願っています。

（教育保全担当：上江）

企画展2 クジャク展@第2こども牧場

旭山動物園では現在17羽のクジャクを飼育しています。クジャクは暖かい国の鳥。極寒の冬の旭川の屋外では耐えられないため、冬期開園中は暖房の効いたバックヤードで過ごしており、クジャクの姿を観てもらうことはできませんが、冬もクジャクの魅力を知ってもらいたい！との思いで、クジャク展を企画しました。昨年も開催したのですが、今年はその内容をさらに充実させ、バックヤードで過ごす姿をモニターで紹介したり、羽を広げるクジャクの椅子を製作したり、羽を触ったり、鳴き声を聴いたり、うんちの匂いを嗅いだりと、五感を使ってクジャクを体感できる展示になっています。また、クジャクはとても神聖な鳥。宗教との繋がりも深く、美や勝利の神様の遣いともいわれます。日本に入って来たのは飛鳥時代。歴史を辿ると日本の動物園が出来たのはクジャクがきっかけであるともいえます。

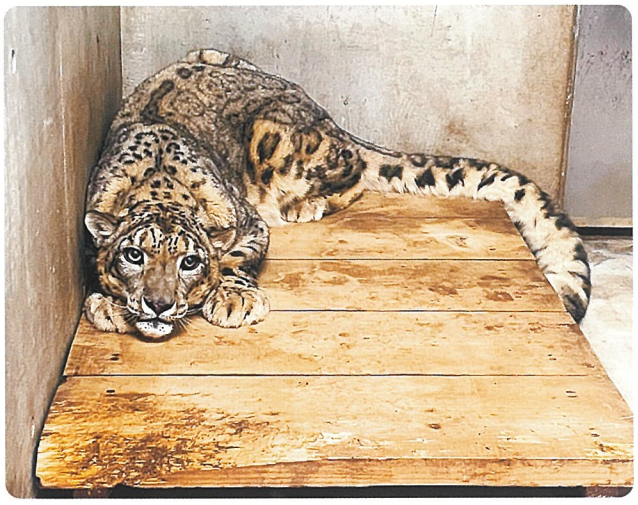
そんな素敵なクジャクですが、本来日本に生息する鳥ではないため、野生化すると住み着いた地域に様々な問題を生じさせてしまいます。それが沖縄県の離島で起こっています。本来は神聖でゴージャスな鳥、しかし住む場所が違うだけで害鳥→駆除の対象になってしまう現実があるのです。今回実際に沖縄の方や関係者の方々に電話で情報収集を行いました。「可愛いな」「綺麗だな」だけでなく、私たちヒトとの共生にも意識を向けてもらえるといいなと思いました。

見ていただけたかなぁ伝わったかなぁ楽しんでもらえたかなぁ…多くの人に伝えるって難しいなぁと試行錯誤の企画展でした。

（こども牧場担当：高橋）

主なできごと

12月7日　「クリスマスツリーを飾る会」を開催
12月12日　ワオキツネザル「レモン」老衰で死亡
12月28日　冬休みワークショップ in こども牧場
1月8日　ホッキョクグマの「ピリカ」展示再開
1月10日・11日　わくわく体験らぼ in 旭山動物園
2月6日　企画展「雪の上の足跡展」を開催
2月7日～9日　雪あかりの動物園
2月7日　「シマフクロウおはなし会」を開催
2月12日　ユキヒョウの「コボ」が多摩動物公園より来園



2月14日・15日　ZOOっとボルネオインスタライブ開催
3月9日　アムールヒョウの「みらい」出産
3月11日　アムールヒョウの子ども死亡（外部からの衝撃による内臓損傷による死亡）
3月12日　当園からの半径10キロ圏内の旭川市内において、高病原性鳥インフルエンザ発生したため今シーズンのペンギンの散歩終了
3月15日　ゴマフアザラシの「麦」が出産

3月16日　レッサーパンダの「茜茜（チェンチェン）」が台湾の台北市立動物園に移動
3月21日　第31回旭山動物園ふれあいフォトコンテスト表彰式&第26回旭山動物園読書感想文コンクール表彰式
3月22日　エゾシカアップデート開催

編集後記

気がつけば新しい年度が始まりました。春の閉園期間では、それぞれの施設の大掃除、看板の書き換え、放飼場のリニューアルなど様々な準備を約3週間行い、29日の夏期開園を迎えることになります。旭山動物園では夏期開園が新たな出発な日となります。

今年度は新しい園長に交代し、旭山動物園も新たなスタートとなります。今年度もどうぞ旭山動物園を応援していただければと思います。（佐賀）

最新情報はここでチェック!!

公式HP　Facebook
X（旧Twitter）　Instagram

モユク・カムイ No.128 令和8年4月29日

●発 行 所／旭川市旭山動物園
〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
●発 行 人／中田　真一
●表 紙 絵／原田　佳
●編　　集／中田　真一・中村　亮平・佐賀　真一
原田　佳・上江　昌弘
●印　　刷／㈱須田製版：〒063-8603 札幌市西区二十四軒2条6丁目1-8 ☎011-621-1000

FSC www.fsc.org ミックス 紙｜責任ある森林管理を支えています FSC® C179035

飼育動物数

令和8年2月末現在

●哺乳類	41種	328点
●鳥　類	51種	278点
●は虫類	9種	31点
●両生類	5種	27点
●合　計	106種	664点